

小川町の概要

小川町は埼玉県の中央部よりやや西に位置し、周囲を緑豊かな外秩父の山々に囲まれた総面積 60.45 km²の町で、その内山林が約 33%の面積を占めている。町の中心部をなす市街地付近はいわゆる小川盆地で、四囲を高度 500～600mの山々がそびえている。市街地の南側に流れる槻川は、その源を笠山に発し、東秩父の断層谷を流下して小川町に入り、嵐山町にて都幾川に合流している。小川町の伝統産業として歴史を誇る小川和紙や小川絹をはじめ、建具、酒造などが古くから栄え、観光資源としても貴重な産業になっている。昭和 30 年に比企郡小川町、大河村、竹沢村、八和田村の 1 町 3 か村を合併し新たな「小川町」が誕生し、その後寄居町の一部、嵐山町の一部を境界変更により小川町に編入、また小川町の一部を嵐山町、寄居町に境界変更により編入して、現在の町域となる。平成 17 年 2 月に合併 50 周年を迎え、記念式典の開催や記念誌の発行が行われた。

小川町の人口動向は、平成 7 年の 37,822 人をピークに減少に転じ、一方世帯数は増加傾向にあって、核家族化の進行が伺える。平成 17 年 3 月 31 日現在、人口は 36,515 人、世帯数は 12,559 世帯である。

交通は、東から中心部を通り南へ東武東上線が、南から中心部を通り西へ JR 八高線が延びていて、中心部の「小川町」駅で接続している。町内には他に「竹沢」駅（JR 八高線）と「東武竹沢」駅（東武東上線）の 2 駅がある。平成 17 年 3 月、東武東上線の武蔵嵐山駅から 3 kmの地点に新設された嵐山信号場までの複線化の完成により、武蔵嵐山駅で折返し運転していた列車を小川町駅まで延長、小川町駅発着列車が平日で 31 本、土休日で 15 本増発された。また、道路は国道 254 号が町の東西を通過するほか、県道熊谷小川秩父線、県道飯能寄居線、県道赤浜小川線等の主要道路が市内を放射状に走っている。市街地中心部は国道・県道が交差するため交通混雑が著しく、その緩和のために国道 254 号バイパスが平成 3 年 4 月に寄居まで開通した。平成 16 年 3 月には関越自動車道「嵐山小川インターチェンジ」およびインターチェンジへのアクセス道路「県道熊谷小川秩父線バイパス」が開通し、観光客の増加、新規企業の進出等が期待されている。

商業施設は、小川町駅前のショッピングセンターを核として駅周辺に各種小売店舗、銀行等が連たんしているほか、みどりが丘地区に郊外型レストラン、大規模小売店舗が進出している。また、工業生産の拠点として、県下で初めての市町村工業団地として造成された「高谷工業団地」（全体面積 5.6ha、工場用地面積 2.8ha、区画数 7 区画）を区画分譲し平成 16 年 4 月に完売した。

小川町は、史跡や町並みなどの風情から「武蔵の小京都」と呼ばれており、和紙だけでなく県内の伝統的手工芸品を一同に集めた「埼玉伝統工芸会館」や、和紙の研修ができる「小川和紙体験学習センター」等の施設を建設し、観光地としても力を入れている。

平成 17 年 4 月 26 日現在